

# ニューメキシコ州～アメリカ最古の都市、サンタフェとアルバカーキ～

写真・文 沖縄県立那覇国際高等学校 神村 智子



アメリカ合衆国50州のうち、47番目の州ニューメキシコは、地理的に北米大陸の南にあり、ロッキー山脈南端に位置する。日本国土の約80%の広さで、海拔1200m以上の土地が全体の85%を占め、気候は年間310日が晴天日、年降水量220mmと乾燥している。まるで不毛の土地のようだが、灌漑農業による穀物類や綿花などの作物や乳製品が生産されている。また、鉱業も主要産業となっており、石油、天然ガス、石炭、金、銀、ウランニウム鉱石などを産出することから、原子力エネルギーや宇宙ロケット開発の本部が置かれている。近年では、映画産業の誘致政策や太陽光発電（写真①）の建設構想が進んでいる。

アメリカ大陸の東方から開拓してきた開拓団がこの地に到着したときには、すでに先住ネイティブ・アメリカンとメキシコからやってきたスペイン人らによって、確固たる文化が築かれていた。現在でも、スペイン語を話すヒスパニック系の人々が多く住んでおり、スペイン語を公用第2言語として定めている唯一の州である。料理は基本的にメキシカンの影響を強く受け、緑や赤のチリソースが特徴的で、ピリッと辛い伝統的なニューメキシコ料理が味わえる。

アメリカ大陸の開拓者によってつくられた街ではないことから、インディアン文化を払拭して発展してきたアメリカのほかの地方に比べて、インディアン文化の基礎のうえに成り立っている都市というのは一種独特な感慨を抱かせてくれる。軒下に唐辛子を吊したアドビー（土と藁を固めた日乾レンガ）とよばれる建物は、乾いた風土に根づいておりあちらこちらでみられる（写真②、③）。

州都サンタフェは、街中がアドビーの集合した“プエブロインディアン”という住居スタイルになっている。その中心となるのが、市民の憩いの場でもある中央公園（プラザ）だ。インディアンジュエリーの露店（写真④）、ギャラリー、ミュージアムが多く集まっており、人と文化と時間と歴史が織り成すこの街を歩けばなぜか気持ちも癒されてくる。この街がアメリカの“宝石”とよばれ、世界のベストタウンにランクされ、パワースポットともいわれる理由も、ほかでは出会えない本来のアメリカに触れることができるからだろう。

州都サンタフェから車で1時間ほどの南に、ニューメキシコ州最大の都市アルバカーキがある。アルバカーキはリオグランデ川の広く浅い谷（標高およそ1500m）に位置する。東にはサンディア山脈がターコイズブルーの空に達するように印象的な高い壁をつくっており、街のどこからも眺めることができる（写真⑤）。サンディアとは、スペイン語で「スイカ」を意味する。日没後、サンディアマウンテンがピンクとオレンジの混ざったような柔らかいスイカ色に染まり、山肌の樹林部分が黒っぽくみえる辺りがちょうどスイカの皮の黒い筋のようにみえることからそう名づけられたという。

ネイティブ・アメリカンとスペイン、メキシコの文化が混じり合い、古くから独自の社会をつくってきた土地、ニューメキシコ。強烈な太陽と、砂漠の砂の色、そして青い空の色。自然と歴史の雄大さに感嘆せずにはいられない。

（写真①②③④サンタフェ、写真⑤アルバカーキ 2011年4月撮影）

